

# 納豆 なっとう

**む**かし、額田ひかだ(現在の那珂町額田)に、たつあいでいとうちくぬき(ほらふき・うそつき)の名人がおりました。

たつあいのちくには、水戸の殿様でさえころりとだまされ、馬を一頭とりあげられてしまったほどでした。

ある日、たつあいは、その馬を引いて力仕事にかけました。夏の暑い盛りで、青草だけ食べさせていては馬も元気がでないだろうと、大豆を煮て、わらづとにつめたものを馬の背にのせてもっていきましました。

しばらくして、お昼休みにしようと、たつあいが自分のにぎりめしを出してみると、暑さでくさりかけているではありませんか。

ひよつとしたらと思ひ、馬の背中のわらづとをあけてみると、これも糸をひいてべたべたになつていました。

「これじゃ、馬にも食わせられねえな。」とがっかりして放り出すと、馬はわらづとその豆を食べ始めたのです。「こら、こら、やめろ。」ととめるにはとめたのですが、馬はおいしそうに食べているのです。不思議に思つて匂いをかいでみたら何とも良い匂いがします。

今度は、おそろおそろ一粒食べてみると、味もなかなかのもので、「こりゃあ、うめえ。馬にやもつたいねえ。」とたつあいは残りを全部食べてしまいました。

家に帰ると、さつそく同じように作つて村人に食べさせてみると、これがやはり好評で、それではとみんなに作り方を教えてやりました。

「ところでこりゃ、何ていう名前にしたらいいのかね。」

「そうよな。わらづとに豆を納いれて作つたんだから納豆なっとうつてのはどうかな。」  
そんなことで納豆と名づけられたという話が残っています。

